

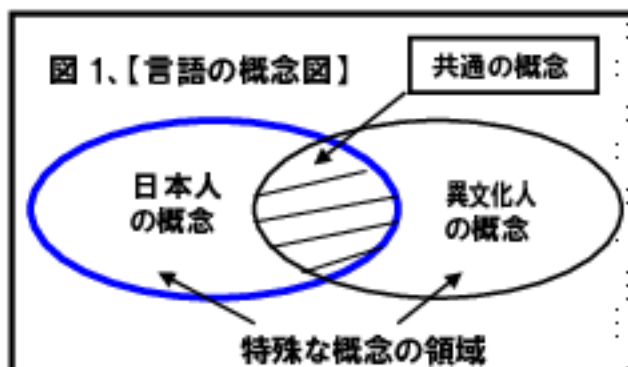
第1弾！国家試験合格に結び付く、学習方法の紹介 ～学習結果が国家試験合格と、実務能力に直結するために～

- ★ 前号では【学習時間量と自学能力】との関係について触れたが、今号では「有効な学習方法」を紹介する。
- ★ 【自学能力】を養うためには、日本語を概念的に理解させることが重要で、特に「和語と漢語の違い」を理解することで、より明確に、日本語の語彙理解が可能となる。この段階を「基礎言語教育段階」と言う。
- ★ 受験者の全員が、「概念語を擦り合わせる」教育経験がなく、「暗記方法」の学習だけだったために、能動的な学習をする能力、即ち、【自学能力】がない。

- ★ 万国の言語は、図1の通り【母語と外国語の概念の相違】があり、この概念図に基づいて、言語が成り立っていることを理解することが重要だ。
- ★ 「日本語にはあるが、外国語にはない言葉」などは、特殊な概念の領域にある言葉だ。そして、「日本語にもあり、外国語にもある言葉」は、共通の概念の領域にある言葉だが、その表現方法は「音・文字」が異なっているだけだ。
- ★ この「概念構成」を理解しているだけで、受験者の指導は効果的で、効率の良い指導ができる。

I. 【「概念的な教育」が、効果的な方法】

1. 「概念的な教育」とは、万国の言語は【生き物・物・所・数・時・自然・事】の【七つの基本概念領域】の言葉によって、構成されている。即ち、どの外国人にもこの【基本概念領域】があり、その使い分け方を教えるだけで、「自学する能力が養われる方法」を利用した方が良い。
2. 「学習段階」を必ず設定し、【基本概念領域】に基づく【規則性と用法】を理解させる方法が、非常に効果的だ。例えば、外国語にはない「ある・いる」の用法は、【基本概念領域】に基づいて教えれば、すぐに理解できる。
3. また、「学習段階」の設定は【易しいものから難しいものへ】の順序で学ばせる方法が、効率的で意欲が継続できる。即ち、受験者の言語能力に合わせた「学習段階」を創り、その能力を高めるとともに、より難解な【規則性と用法】を習得させ、受験能力を養う方法が有益だ。



4. 「共通概念の言葉」から習得させるのは、「語彙理解」が不要となり、語彙量を増加させ、表現力を効果的に高める方法だ。同時に、【規則性と用法】を習得させ、「読解力と構文力」をも養うことができる。

II. 【体系的な学習方法こそが、合格に結び付く方法】

図2.【言語能力の段階】

【合格】

三年目

職域言語能力

二年目

生活言語能力

一年目

基礎言語能力

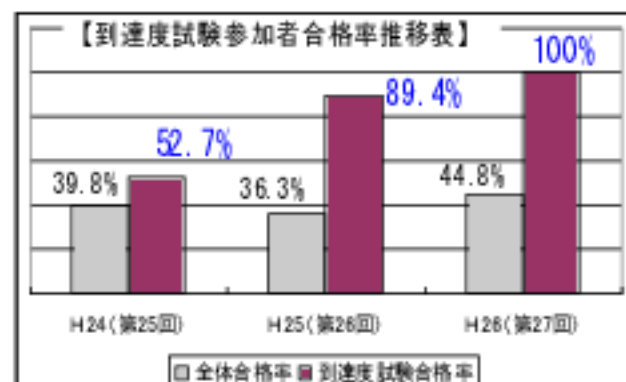
3. 【体系的な学習方法】とは、図2の通りに言葉の習得をする手順だ。即ち、【人間が成長する過程と同じ道】を辿るのが重要だ。しかし、多くの現場では一年目から専門用語や知識を学習させている。この方法は、十分な言語能力がない受験者に対しては全く無意味だ。その結果、【学習意欲】を減退させ、帰国者を出す要因となる。
4. 学習の仕方の問題となっていることは、「学習レベルの違う事業団教材が大量に送付され」て、理解できずに、消化不良を起こしていることだ。

1. 図2は、「学習段階」を設定するにあたって、必要な言語能力の順序を表したものだ。即ち、一年目の【基礎言語能力】がなければ、国家試験問題を読解することはできず、「ただ、語彙だけを拾い読みして、記号を選択する能力」だけとなる。
2. その結果、「読解力と構文力」がないままに、運良く合格できても、「実務能力がない人材」となってしまい、現場では足手まといの人材を創り出す。よって、大前提に【基礎言語能力】を養う必要があることを、強く認識しなければならない。
5. 事業団教材を吟味してみると、図2の【言語能力の段階】を無視した教材であることが分かる。入職一年目から、この教材を使用しているために、「暗記させる方法」だけが教育指導と思っている。その結果、学習意欲と【自学能力】が養われない。
6. 「合格しなければ全くの無駄になること」を考えると、【言語能力段階】を無視した教材、並びに暗記する学習は、決してさせないことが大切だ。「施設は合格者を出すことが目的」なのだから。

Ⅲ、【概念論で学習した、受験者の合格率が高くなる学習方法の紹介】

- 1、図3は、過去三年間の合格率を表したもので、全受験者の合格率と、【到達度試験参加者】の合格率を比較したものだ。この図表から見れば、一目瞭然に「受験日までの学習方法が、どんな方法であったか」が、合格率に明確に表れている。
- 2、「なぜ、これ程の差がつくのか」と疑問を持つ関係者が多数いるが、到達度試験参加者は、【言語教育は「概念的に捉えて、論理的に習得すること」を重要視する教育原則】を、実践しているからだ。
- 3、教材は【自学できる教材】を使用しているために、指導者がいなくても、自分の時間内で【自学能力】が身につく学習ができる。さらに、未習の分野を学習できる教材を使っているからだ。
- 4、「自学能力を養う教材の特徴」は、8種類の基本教材で、「日本人の小学生から、高校生段階まで」の言語能力を、段階的に養えるのが大きな特徴だ。特に、漢字に関しては「和語の訓読み漢字」を中心に習得できる教材だ。また、読解力を養うために『予告文』があり、文脈がある教材で学習する。そのために、指導者なしで自学できるのだ。

図3、



- 5、【到達度試験参加者】は、【三年間学習計画】(図2)を基に、「学習段階」を4期に分け、能力の向上度合が自覚できる方法をとる。また、構文式試験を定期的の実施して、受験者に【言語技能の数値】で到達度を見せ、常に比較できるために、弱点を自覚させることができる。図3の高い合格率の根拠は、【客観視できる学習方法】を採用しているためだ。

Ⅳ、【国家試験合格に、絶対必要な「言語技能」の学習方法を紹介】

図4、

【言語技能の種類】

A、瞬時反応 (正誤なし)
B、瞬時反応 (正誤あり)
1、助詞能力「助詞・接続助詞」
2、語彙能力「和語・漢語」
3、文意能力「単語・重文」
4、文脈能力「接続詞・指示詞」
5、読解能力「短文・中文・長文」
6、文字能力「漢字」
7、文体能力「です・ます・だ体」
8、構文能力「単文・重文・複文」
9、丁寧表現能力「尊敬・謙譲語」

- 1、【到達度試験参加者】は、言語を概念的に学び、「日本語を日本語だけで考える学習方法」を訓練している。その結果、必然的に言語能力が約3か月間で、日本人の【基礎言語能力】と同等レベルまでになる。さらに、表面的な言語能力だけではなく、「学習段階」ごとに図4に表した【言語技能】を、並行的に養う指導方法をとっているために、日本人の言語能力と同様の【聴解力・口答表現力・読解力・構文力】が養える。
- 2、【言語技能】の中で最も重要なのは、「瞬時反応能力」だ。国家試験では、「限られた時間内に正解を選ぶ能力」が絶対必要不可欠だ。なお、この能力があれば、「見直し時間」を持つことができるために、合格の可能性が増大して、受験者の精神的な安心感を持たせることができる。この「瞬時反応能力」を習得させる方法が、是非とも必要だ。
- 3、次に、試験問題を正しく読み取る「読解能力」と、それに伴う「助詞能力」並びに、「文意・文脈能力」が無ければ、知識はあっても正解は選べない。多くの受験対策の傾向は、これらの能力を無視して、暗記法による「語彙能力」を重要視したマークシート式の学習が一般的だ。その結果、「国家試験合格率が低くならざるを得ない」原因と言える。

- 4、【到達度試験参加者】の特徴は、「受験すれば必ず合格できる」を大前提に、図4(瞬時反応力と、1~5)の【言語技能】を習得している。また、「基礎教育段階」から、合格後に必要な言語教育、図4(6~9)も習得する。即ち、国家試験受験・合格能力だけではなく、「実務能力」も、並行的に養っていることが大きな特徴だ。

【言葉の指導方法】

Q、日本語は「和語・漢語・外来語」の3種類でできているが、「それぞれの違いと使い分け方」をどのように教えるか？

A、答えを知りたい方は、弊社までご返答下さい。

- 5、「実践能力」を養うためには、【言語技能】の中で図4(6~9)が、絶対必要不可欠だ。これらの能力が身についていなければ、現場での記録や、会議などのメモとりができずに、実務遂行に支障が生じてしまう。その結果、「合格しても使い者にならない人材」として評価され、本人の労働意欲がなくなってしまう、帰国する者も出る。

- ★ 国家試験に合格するためには、【教育は科学なり】と言われる通り、全てが客観的に表れる学習方法が、絶対合格に必要な秘訣だ。
- ★ 合格者を活かすためには、「実務能力」を国家試験日までに養うことが必要だ。

施設の声

勤務時間内の学習は、極力、避ける！

- 当施設では、できるだけ業務時間外で学習時間を設けるようにしているが、「施設の声」を読むと、どの施設も、「業務時間内で学習させているんだな」と感じた。そして、事業団からも「もっと学習時間をとるように」指導されている。
- しかし、【月報】には「できるだけ勤務時間内の学習を少なくするのが良い」との記事があった。施設としては当初の方針と、【月報】の記事同様に、「勤務時間内での学習は多くせず、勤務時間外の学習をさせよう」と思っている。なぜならば、受け入れに多大な費用がかかっているし、日本人との待遇の格差が生じる問題が多くなるので、あくまでも就労中心に考えている。
- 当施設は、外部講師に日本語学習の指導をお願いしているが、職員にはその教育効果は感じられない。学習意欲のある人と、無い人の差があることだけはよく分かる。日本語力の効果が感じられないので、先生に尋ねた所、先生が言うには、「ゆっくりのペースで、時間をかけたほうが良い」と言われている。
- 日本語教育に関しては職員は素人なので、先生にお任せしている状態だ。しかし、【月報】でも言われているように、教育効果を把握して、少しでも合格できるようにしたいと願っている。

(青森県・K施設)

効果がない現状を、 どう変えたら良いのか？

- 一時帰国をした受験者は、日本語学習の伸びで悩んでいた。今は幸いに戻ってきて、仕事を毎日している状態だ。
- 当施設では、日本語の先生に週1回来てもらって、学習指導をしてもらっている。学習の仕方は、「宿題を出しながら教える」方法だ。その他は、施設長自らが学習をみて、同様に、課題を与えて教えて、それをチェックしながら進めている。
- 総務としては、なかなか教育の成果が上がっていないと見ているが、日本語教師もおり、施設長が直接、教えているので、教育の仕方を変更できない。確実に合格させるためには、他にもっと良い方法があるのではないかと、模索している。

(千葉県・T施設)

ことばの研究社 EPA介護学習支援情報

勤務時間内の学習が多すぎるのかも？

- 毎日ではないが、勤務時間中に学習時間をとっており、週当たりの時間数にすると、「当施設は、他に比べると学習時間数が多いのかな」と、【月報】の記事を読んで感じた。
- しかし、法人本部の方針としては、勤務時間中に「これだけの時間数をとるように」との指示もあるので、それに従って、現場は学習時間とらせている。(神奈川県・T施設)

専門語彙・知識は、 体得させることが効果的！

- 当施設は、ベトナム人を受け入れており、日本語力はあるなど感じている。月3日、一時間ずつ、勤務時間中に学習時間をとっているが、あとは仕事をさせている。
- 介護日誌も書ける状態で、問題なく夜勤にも入っている。前にも【月報】の記事読んだが、指摘の通り、学習ばかりに時間をとるよりは、仕事の中で介護の知識を体得するようにしている。そのほうが本当に効果的だ。
- でも、これがベトナム人だからなのか、フィリピン・インドネシアを受け入れている施設からは、日本語力が低いため、毎日1時間勤務時間内に時間をとって指導し、それを半年間以上は続けているという声も聞いている。
- ベトナムの場合は、最低でもN3を取得しないと、マッチングに参加できないという条件がある。しかし、フィリピン・インドネシアは、N4程度でも可能であるということから、EPAで受け入れるなら、3か国同じ条件で、受け入れるべきなのではないかと思う。

(栃木県・U施設)

事業団は、なぜベトナム人を 強引に勧めるのか？

- 事業団は機会あるごとに、「ベトナム人はいいいよ、なぜ、ベトナム人を取らないの？」と執拗に勧誘するが、他の二か国人に対して失礼な姿勢だと思う。
- これ程、執拗にベトナム人を勧める裏には、何かがあると、思わざるを得ない。

(静岡県・M施設)

◎ 到達度試験Aコース(独立型)

ことばの研究社

<自学能力養成型コース>

【一年目 到達度試験 初回レベル～Dレベル】

※ 【自学能力】を養うことを目的としたコースです。言語能力は、日本人の中学2年生までの能力に達するようにプログラムされています。

※ 【自学能力】を養う教材を使用

主教材 ・「100万人の日本語No.1」

(日本語の規則性と用法育成用)

・「100万人の日本語No.2」

(中文読解と文脈理解育成用)

副教材 ・ひらがな絵かきど (瞬時反応能力育成用)

・ひらがなの一と (構文力育成用)

・カタカナノート (説明文・会話文の用法育成用)

・漢字の一と1 (基礎漢字と文型理解育成用)

・漢字ノート2 (熟語漢字習得育成用)

・手渡し教材随時

【二年目 到達度試験 Eレベル～国試2レベル】

※ 日本人の専門学校生と同等レベルの言語能力に達することを目的としたコースです。そのため、マークシート方式の国家試験問題の解答能力だけでなく、文書で解答できる能力が育成できます。

※ 主教材 ・「100万人の日本語No.3」

(日本語の運用と活用育成用)

副教材 ・手渡し教材随時

・国家試験過去問題集

【三年目 スカイク授業 5回(1回2時間)】

※ 日本人の社会人と同等レベルの言語能力を養い、国家試験合格を目的としたコースです。

※ 主教材 ・専門参考書

副教材 ・手渡し教材随時

・国家試験過去問題集

- 【指導内容】
- ① 職種に合わせた専門書の理解の仕方指導
 - ② 類推力の育成で専門用語(熟語漢字)の対応指導
 - ③ 要約力を養い実務能力の育成指導

【学習並びに、問題点を客観的に把握するために、以下の報告書提出し、現場の指導に役立てます。】

※ 【到達度試験】後は、毎回「考察票」を提出。

※ スカイク授業後は、毎回「授業内容報告書」を提出。

※※ 価格等の詳細については、メールでお問い合わせ下さい。

各段階の学習目標と、特徴

一年目	★基礎言語能力の育成 ①日本語の「規則性と用法」を理解させて、【自学能力】を養う。 ②1,755語の基本漢字が習得できて、日本人の中学2年生レベルの言語能力を養う。 ③会話力は、生活上に支障が無いレベルで、意思伝達能力は、話し相手と円滑にできる能力を養う。	●日本語能力を養う ①職場での会話力は、日本人の中学2年生レベルまで、できるようになる。 ②職員の指示を的確に内容把握でき、それに従って行動できるようになる。 ③読解力が身につくため、必要な日本語文の書類を読むことができるようになる。 ④簡単な業務日誌が書けるようになる。
二年目	★生活言語能力の育成 ①日本語の「運用力」を身につけ、正確な意思疎通力を養う。 ②仕事を自主的に行い、責任を持って業務を遂行する能力を養う。 ③日本語力を高校3年生レベルにし、夜勤業務に就ける能力を養う。	●国家試験受験能力を養う ①専門参考書の「技術編」を読み、文で答えられるようになる。 ②専門用語の漢字を「類推して読解」できるようになる。 ③自学で「過去問」ができるようになる。
三年目	★職域言語能力の育成 ①日本語を使った「業務実践力」を行える能力を養う。 ②会議等で意見を発言し、内容把握ができる能力を養う。 ③要約力を養い、会議等で的確なメモをとれる能力を養う。 ④日本人の社会人と同等レベルの言語能力を養う。	●国家試験合格能力を養う ①専門参考書の抽象問題領域「法律・日本事情等」が読解できるようになる。 ②日本事情の専門知識を体系的に把握して読み理解できるようになる。 ③マークシートの解答ではなく文書による解答ができるようになる。

◎ 到達度試験Bコース(併用型)

< おまかせコース >

【一年目 到達度試験(初回~Dレベル)+スカイプ】

※【自学能力】を養える【到達度試験】と対面教育ができる「スカイプ授業」を併用しています。

日本人の中学2年生までの能力に達するプログラムで、特に、正しい会話力が身につけられるコースです。

※【自学能力】を養う教材を使用

主教材・「100万人の日本語No.1」

(日本語の規則性と用法育成用)

・「100万人の日本語No.2」

(中文読解と文脈理解育成用)

副教材・ひらがな絵カード(瞬時反応能力育成用)

・ひらがなの一と(構文力育成用)

・カタカナノート(説明・会話文の用法育成用)

・漢字の一と1(基礎漢字と文型理解育成用)

・漢字ノート2(熟語漢字習得育成用)

【二年目 到達度試験(E~国試1レベル)+スカイプ】

※日本人の専門学校生と同等レベルの言語能力に達することを目的としたコースです。

スカイプ授業併用型なので、マークシート方式の国家試験問題の解答能力だけでなく、文章で解答できるようにプログラムしています。

※【自学能力】を養う教材を使用

主教材・「100万人の日本語No.3」

(日本語の運用と活用育成用)

副教材・手渡し教材随時・国家試験過去問題集

【三年目 到達度試験(国試2レベル)+スカイプ】

※日本人の社会人と同等レベルの言語能力を養い、国家試験合格を目的としたコースです。

日本人の職員と同等に業務ができるまでの能力に達するように、プログラムしています。

また、国家試験合格後でも、同じ職場で働く意欲を養うことも目的としています。

※主教材・専門参考書

副教材・手渡し教材随時・国家試験過去問題集

- 【指導内容】
- ① 職種に合わせた専門書の理解の仕方指導
 - ② 類推力の育成で専門用語(熟語漢字)の対応指導
 - ③ 要約力を養い実務能力の育成指導

【学習並びに、問題点を客観的に把握するために、以下の報告書を提出し、現場の指導に役立てます。】

※【到達度試験】後は、毎回「考察票」を提出。

※スカイプ授業後は、毎回「授業内容報告書」を提出。

※※価格等の詳細については、メールでお問い合わせ下さい。

各段階の学習目標と、特徴

一年目	★基礎言語能力の育成 ①スカイプ授業を併用するために、対面学習で、適切なプロの指導が受けられる。そのために、確実な日本語力が養える。 ②日本語の「規則性と用法」を理解させて、【自学能力】を養う。 ③1,755語の基本漢字を習得でき、日本人の中学2年生レベルの言語能力を養う。 ④会話力は、生活上に支障が無いレベルで、意思伝達能力は、話し相手と円滑にできる能力を養う。	●日本語能力を養う ①職場での会話力は、日本人の中学2年生レベルまで到達できる。 ②職員の指示を的確に内容把握でき、それに従って行動できる。 ③読解力が身につくため、必要な日本語文の書類を読むことができる。 ④簡単な業務日誌が書ける。 ⑤スカイプ授業は、受験者の表情を教師が読み取れるので、「本当に理解しているか、どうか」が判断でき、確実な言語能力がつく。
二年目	★生活言語能力の育成 ①日本語の「運用力」を身につけ、正確な意思疎通力を養う。 ②仕事を自主的にやり、責任を持って業務を遂行する能力を養う。 ③日本人の高校3年生レベルにし、夜勤業務に就ける能力を養う。 ④日常会話力が支障なく使える能力を養う。	●国家試験受験能力を養う ①専門参考書の「技術編」を読み、文で答えることができる。 ②専門用語の漢字を「類推して読み、意味理解」できる。 ③自学で「過去問」を解ける。 ④スカイプ授業併用型なので、問題・疑問が、その場で解決できる。
三年目	★職域言語能力の育成 ①業務の実践力を養う。 ②会議で意見を発言して内容把握でき、メモをとる能力を養う。 ③話の内容を的確に、まとめる能力を養う。 ④日本人社会人と同等レベルの言語能力を養う。 ⑤スカイプ授業なので日本人感覚の「語感・語調」を、正しくプロの教師が養う。	●国家試験合格能力を養う ①専門参考書の抽象問題領域「法律・日本事情等」が読解できる。 ②日本事情の専門知識を体系的に把握して、読み理解できる。 ③マークシートの解答ではなく、文章による解答ができる。 ④専門語彙と専門知識を自学できる。

【 国家試験受験能力到達度試験の特徴 】

EPA学習支援 こぼの研究社

【国家試験受験能力到達度試験】の特徴は、自学能力を養い、言語技能が並行的に伸び、受験者の対応能力が養えます。教育効果は介護分野では、国家試験合格者を **3年間連続で、80%以上の実績を誇っています**。また、看護分野でも、EPA受験者全体の合格率が10%前後に留まっているのに対して、【到達度試験参加者】の合格率は、**55%**と高い水準を保っています。

これは、**受験者全体の合格率10%の5倍の高さ**を示しており、驚異的な合格率といえます。

※ 本試験は、あくまでも、専門領域で社会人として働ける能力を養うことを、重要視した学習方法です。

さらに、受験者が日常の業務の中で、日本人職員とのコミュニケーション能力をも身につけることができるために、介護施設や病院などで実践力のある要員として、育成することを目的としています。

※【到達度試験参加者】には、定期的に試験結果を「考察票」でお送り致します。「考察票」には、指導者用のために、具体的な指導方法を記しておりますので、安心してご指導頂けます。

レベル	合格基準	特徴	技能の種類	合格
3段階	75 % 専門学校卒の 言語能力	※ 国家試験に対する合格力と知識力を養う ◎ 国試問題に対する「文脈読解」と「要約力」 に対応できる学習をさせる。	★ 5 技能 ・ 瞬時反応 ・ 文脈読解力 ・ 要約力など	職域言語能力を養う
2段階	90 % 専門学校 2 年 の言語能力	※ 専門知識の活用力を養う ◎ 国試過去問を使った「漢字専門用語」（漢字 熟語）と「文脈読解力」に対応できる学習を させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応 ・ 漢字熟語力 ・ 文脈読解など	
1段階	90 % 専門学校 1 年 の言語能力	※ 専門知識の運用力を養う ◎ 国試過去問を中心とした問題で「読解力」 （語彙力・文意力）に対応できる学習をさせる。	★ 3 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	
F段階	85 % 高校 3 年の 言語能力	※ 専門領域の基礎力を養う ◎ 介護・看護の基礎知識を基に具体的な事例で 学習させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	生活言語能力を養う
E段階	80 % 高校 1 年の 言語能力	※ 日本語の「規則性と用法と運用力」を養う ◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 運用力が身につく学習をさせる。	★ 9 技能 ・ 文読解力 ・ 図読解力など	
D段階	75 % 中学校 2 年の 言語能力	◎ 日本語の用法を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 対応力 ・ 要約力など	
C段階	70 % 小学校 6 年の 言語能力	◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文脈力 など	基礎言語能力を養う
B段階 N2レベル	70% 小学校 4 年の 言語能力	※ 日本語の基礎知識を養う ◎ 日本語を表現するために必要な「基礎的な 知識とその使い分け」ができる能力を中心 として学習させる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 読解力など	
A段階 N3レベル	75 % 小学校 3 年の 言語能力	・ 構文力・読解力・文字（ひらがな・カタカナ・ 漢字）・助詞・接続詞の使い分けなど。	★ 13 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文字認知力 ・ 読解力など	
初回		受験者の現状の日本語能力を観る。		

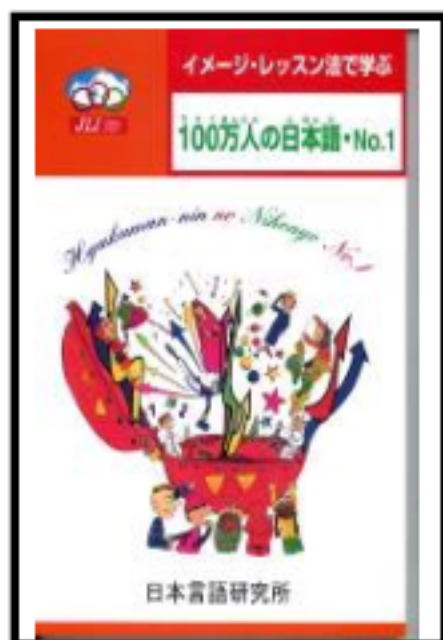
自学能力を養うための 適切な教材！！

- ① 視覚的に学べる ② 日本語の「規則性と用法」が学べる
③ 漢字も類推して読める ④ ストーリー性があり、体系的に作られている

EPA学習支援
スカイプ・総研の問い合せ先
ことばの研究社
電話：086-431-3481
FAX：086-431-3482
岡山県倉敷市庄新町 8-4-12

学習支援 主教材

基礎言語能力レベル

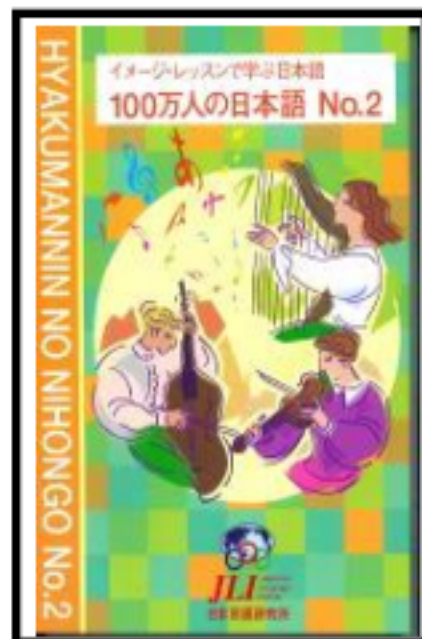


【テキスト「100万人の日本語 No.1」】

ひらがな・基本漢字の習得とともに、全ての言語活動の基本となる概念を形成し、名詞文・存在文・普通動詞文を無理なく学習できる構成となっています。(2,805 円)

※ 習得漢字数 310 字～620 字

※ 習得語彙数 520 語～1560 語



【テキスト「100万人の日本語 No.2」】

会社や学校、家庭内などあらゆる場面における会話文を中心に構成され、社会生活に必要な抽象語を理解しながら、性別や立場による言葉の使い分けを習得できます。また、形容詞文学習により心情・語感表現力の基礎を築きつつ、各ページのコーナーで日本語のあらゆる規則性と用法を自学できます。(2,805 円)

※ 習得漢字数 420 字～840 字

※ 習得語彙数 570 語～1,710 語

生活言語能力レベル



【テキスト「100万人の日本語 No.3」】

日本社会に適應できる人間関係を理解して、目上の人に対する礼節を保つ表現力が身につきます。

論理的に文を組み立てた長文が書けると同時に、漢字熟語を使った要約文を書けるようになります。

仕事に関連する語彙を自分で辞書を引いて調べることができます。(3,300 円)

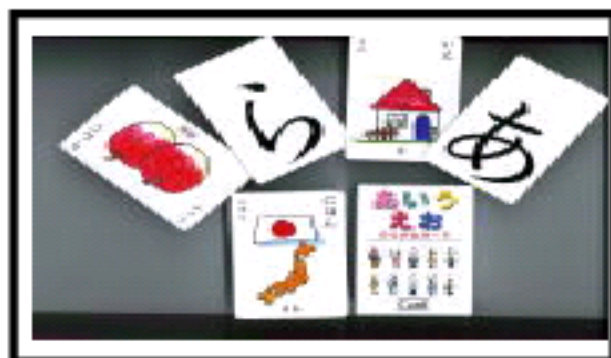
※ 習得漢字数 850 字～1,700 字

※ 習得語彙数 1,110 語～3,330 語

使ってみてビックリ！
教育効果の高さ
学習支援 副教材

基礎言語能力レベル

職員の手が掛からずに、
受験者だけで勉強できる教材



表面にはひらがな文字が一文字ずつ書かれており、裏面にその文字を使った語のイラストが色彩鮮やかに描かれています。

イラスト面には「ひらがな・カタカナ・漢字」の3種類でその言葉が表記されており、学習者が文字を比較しながら自学できるつくりになっています。基礎教育の日本語学習者に最適な内容になっています。

(1,155 円)



ひらがな文字の自学に最適な教材です。字形、書き順などの練習だけでなく、全ての日本語の基礎となる「しつもとこたえ方」に絶対必要な発話方法を、身近な事例を使って学習できるようになっています。社会生活に必要な最低限の語彙も同時に習得し、定着できるように作られています。

(1,980 円)



『100万人の日本語 No.1』に沿った構成となっており、文型・成文の習得をしながら効率的に漢字の読み書きが習得できるようになっています。

非漢字圏の学習者が漢字習得をする上で最適。

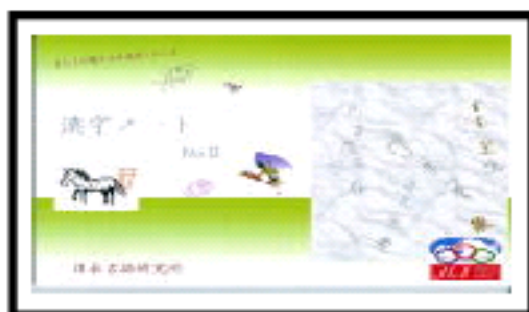
また、中国人学習者にも同様です。(1,496 円)

生活言語能力レベル



カタカナ語彙を使った場面を表すイラストが各ページにあります。このノートは説明文と会話文が織り成されています。この場面を紹介する文は、外来語の理解とその言出し練習をしながら、練習問題によって読解力と文型の応用力を養えるようになっています。

(1,496 円)



『100万人の日本語 No.2』に沿った構成となっており、漢字習得と成文練習のみならず、読解力も同様に養えるように作られています。

漢字の「へん・つくり」の付録もあって、漢字の成り立ちに対する理解ができる内容となっています。

非漢字圏の学習者が漢字を習得する上で最適。

また、中国人学習者にも同様です。(1,496 円)